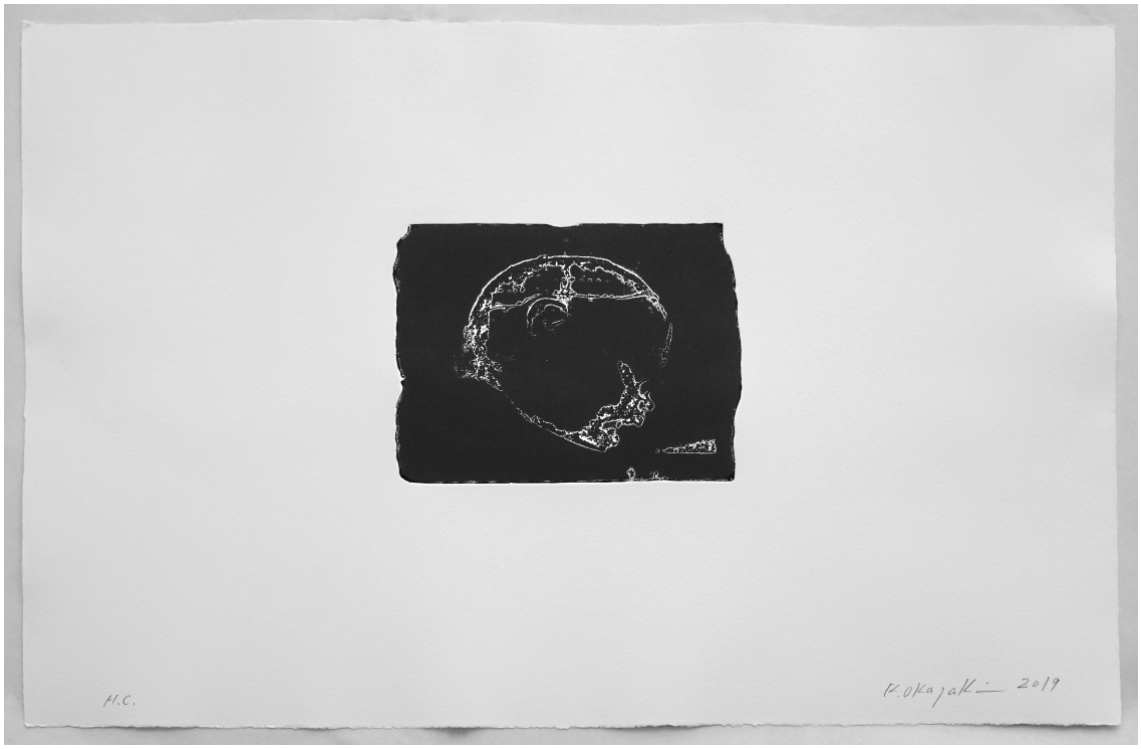
原版と銅版画作品のアーカイブ

2019年度活動報告



再制作された銅版画

銅版画作品のアーカイブとして進めた岡崎和郎氏とのプロジェクトは，氏が1967年に発表した「消えたプロフィール」という作品を銅版画で再制作するということになった。この作品は岡崎氏の手元には無く，作品に使用したポジフィルム自体も不明となっており，過去に美術手帖に掲載された写真しか残っていない状態であった。雑誌の写真を何度もコピー機に通し，岡崎氏が作品の原稿を制作し，それを元にどのような方向で銅版画にするのか打ち合わせを行った。原稿を元に10種類ほどの銅版画作品のトライアルを作成し，その後3種類の案が採用され，赤い色面を使用した作品に呼応する形で青い作品（氏は日本絵画に登場する青鬼の色を指定した）を追加で制作することに決定した。元々の作品はビニール人形の頭部の内側にゼラチンを流し込んで固めたものを，ライトボックス上で水をかけながら溶かしつつ撮影されたもので，作品は光と影・ネガとポジを行き来するような性質を有していたので，銅版画ではポジフィルム制作の際にネガとポジの状態の2種類を写真製版技法を用いて製版した。また刷りの段階でも通常の凹版刷りだけでなく，凸版刷り・凹凸版多色刷りなどのテクニックを組み合わせることで，岡崎氏の手法の一つである「型」の持つ可能性を示唆しようと試みた。再生された作品に加え，原版・原稿・ドキュメントなどをまとめることで単に資料的価値だけでなく，作品を実制作する研究者にとっても実践的な価値のある資料としてまとめることができた。

大西伸明（美術学部准教授）